人権・同和教育シリーズ㉔⑤

研修を通して考えたい

地域人権教育指導員　宮川淳一（みやがわじゅんいち）

【問い合わせ先】人権啓発・男女共同参画推進課 ☎0968(25)7209

昨年7月26日に第20回菊池市人権・同和教育研究大会を開催しました。当日の気温は30度を上回る厳しい暑さでしたが、多くの市民の皆さんが参加されました。

午前中は全体会が行われ、外部講師の講演を録画で視聴しました。講演の後、各分科会が実施され、それぞれの分科会のテーマに合わせて提案発表がありました。

地域の課題を考える

10個ある分科会のうち、「地域づくり活動」をテーマにした第1分科会の様子を紹介します。報告者は2人、参加者は160人を超えました。提案内容の概要は次の通りです。

最初の提案者は、市内の少子高齢化が加速的に進む地域での住民たちの困り感、地域をどうつないでいくのかなどの課題を実態調査をもとに提案発表されました。

2番目の提案者からは校区の見守りパトロールの立ち上げから組織づくりまでの苦労話や活動によって得られた成果を発表されました。

いずれの発表内容も、地域の人たちが中心となって、高齢社会の課題を解決し、地域の皆さんが安心して暮らせる社会づくりについて明確に提案され、充実した協議がなされました。

参加者からの感想をいくつか紹介します。

- ●菊池市での地域とつながる活動の姿がよく見えました。
- ●若い世代が高齢期を迎えるときに、暮らしやすい地域にしていくため、今から支え合える関係や政策などを考えるべきだと実感しました。
- ●地域づくりは、とても大変なときに来ています。それぞれの地域での魅力や課題を中心にすえて、取り組みを進めて行くべきと感じました。
- ●現実的には、地域に核となる人材がいないと厳しいのではないでしょうか。

参加者は、自分が住んでいる地域と重ねて聞いていました。また、自分の住んでいる地域の状況と似ているところがないか考えられたことがうかがえます。

もし、研究大会に参加せず、提案発表を聞かなかったら、これらの感想はなかったでしょう。

つながるための研修

最後に、この人権・同和教育研究大会に初めて参加された人も、たくさんいました。この研究大会は、人や地域とのつながりを求めて集う大会です。「また参加したいです」という言葉は、私たちの心に大きく響きました。

これまで参加したことがなかった皆さんも、一年に一度、私たちの身の回りにある課題について、みんなでじっくり考えてみませんか。

農業委員会だより

【問い合わせ先】農業委員会 ☎0968(25)7235

市の農地賃借料情報（令和7年）

令和7年1～12月までに締結された賃借料の平均（10アール当たり）は左記のとおりです。

地　域	田		畑		参考賃借料（円）【基盤作物】水稲
	平均（円）	データ数（筆）	平均（円）	データ数（筆）	
菊池地区平坦部	27,235	83	22,250	16	26,001
菊池地区中山間地	16,222	67	14,116	28	15,928
七城地区	22,966	238	9,778	23	23,262
旭志地区	11,462	35	10,189	39	11,392
泗水地区	21,029	26	10,616	35	21,070

※農地法の改正により標準小作料は廃止となっています

※農業委員会では賃借料について関与しません。農地の状況などに合わせて当事者間での話し合いにより、柔軟に設定するようお願いします

4月の申請締切日は4月22日㈬

農業委員会関連（農地の売買や貸借、転用など）の申請締切日は、通常毎月25日ですが、4月は大型連休をはさむため、締切日が早くなりますのでご注意ください。

農地の貸し借りは、必ず農業委員会を通した契約を！

農地を貸借で耕作するには、農業委員会の許可が必要です。口頭による貸借契約は、農地法上の効力が生じないため、双方にとってトラブルの原因になる場合があります。

そういった事態を避けるためにも、農業委員会で正式な手続きをお願いしています。賃貸借の方法は、農地法第3条に基づく許可と農地中間管理機構を介した促進計画の2つです。

守り継がれる　無形民俗文化財⑯

【問い合わせ先】文化課 ☎0968(41)7515

市の一部地域では、年末年始に「馬売り」や「馬作り」と呼ばれる行事が行われています。わらで馬を作ってそれを配り歩くもので、牛馬の一年間の労をねぎらう他、豊作や無病息災を願う行事といわれています。

以前は県内でも散見された行事でしたが、現在は姿を消しつつあります。今回は2地区の事例を紹介します。

◆龍門の初馬売り

龍門1区虎口では、毎年1月14日（旧正月）にわらと竹で馬を作り、夜に子どもたちがお盆にわらの馬を載せて「馬売りに来た」と言って各家を回ります。馬はお菓子や餅、ミカンなどと交換され、各家庭では神棚や床の間に飾られます。

馬は一年飾られた後、どんどやで燃やしたり、実のなる木の枝に掛けたりもしたそうです。

馬売り

◆前川地区の馬作り

前川区では、毎年12月29日にわらの馬を作ります。以前は子どもたちが子ども頭の家に集まり、子ども頭の指示で馬作りを行っていましたが、現在は保存会を中心に作られています。

馬は新しいわらを選りすぐり、清めた手で作られます。馬の口にはわらで作った10本の小さな縄をかませますが、昔は一文銭を10枚つけていたといわれています。馬には大根を切って作った小さな台に、松・竹・梅の小枝を挿したものを添え、各家庭に配布します。

以前は配布先から餅をもらい、子ども頭の家でぜんざいを作り、みんなで食べていたそうです。

馬作り

国史跡　菊池氏遺跡

【問い合わせ先】文化課 ☎0968(41)7515

最終回

菊池氏遺跡のこれから

令和6年2月21日に菊池氏遺跡が国指定となって、およそ2年になります。現在、遺跡のほとんどは土の中に眠っているため、現地を訪れても昔の館や川港を見ることはできません。さらに調査を進め、遺跡の全貌を解明したいと思います。

そして、もっとも大事なことは、遺跡の価値を多くの人に知ってもらうことです。どのように見てもらうか、体感してもらうか、これから考えていかなければいけません。

教育委員会では、菊池氏遺跡をどのように守って活用していくか、その基本計画を作り、今後はその計画に沿って調査、保存、活用を図っていきます。

国指定はスタートにすぎません。私たちだけではなく、次の世代、また次の世代にまで遺跡が受け継がれていくことを願います。市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

産官学金でまちづくり⑥

【問い合わせ先】市長公室 ☎0968(41)4488

市では、市民サービスの向上や地域活性化を目的に、企業や大学、各種団体などと包括連携協定を締結しています。連携事業による取り組みを隔月で紹介します。

◆熊本大学

熊本大学は、「地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学」を目指し、自治体や企業、市民との協働を重視した取り組みを進めています。菊池市とは平成26年8月に包括連携協定を締結し、まちづくり、教育・文化、産業振興、人材育成などの分野で、互いの強みを生かしながら連携を深めてきました。

御所通りを中心とした隈府地区にて進められている「まちなかウォーカブル推進事業」では、回遊できるまちなかとしての魅力向上に向けて、市と大学、地元高校生や市民が意見を交わしながら、検討を重ねています。景観や回遊性に関する視点を共有し、市民参加型のワークショップを通じて将来像をともに描くなど、協働によるまちづくりが進んでいます。

地域の担い手を育てる「きくち未来創造塾」では、地域課題と企業課題を結びつけ、新たなビジネスモデルを生み出す共創の場づくりに本学も参画しています。CSV（※）の考え方を取り入れ、市内事業者や若手経営者が地域の未来を主体的に考えて実践する場となっています。本塾を起点として市内高校との連携講義にも広がっており、総合的な探究学習を通して、次世代の地域づくりを担う人材育成に発展していくことも期待されます（関連26ページ）。

これからも菊池市とともに、地域の魅力と可能性を高める取り組みを継続し、持続可能な地域社会の実現に向けて協働を深めてまいります。

きくち未来創造塾

※「Creating Shared Value」（共通価値の創造）の略で、企業が社会課題の解決と経済的価値の創出を両立させること